



栃木県立足利南高等学校

令和3年度 総合学科通信 第3号

No.61

(2022/3/24 発行)

校長より

「その時を失わぬために」

校長 加藤 健



先日、車のラジオから、ザ・バーズの往年のヒット曲“Turn! Turn! Turn!”が流れてきました。もう 50 年くらい前の曲だと思います。ギターのサウンドがとてもきれいです。この曲は旧約聖書の「伝道の書」の一節をアレンジしたもので、すべてのことにそれに適した時期があり、生涯のそれぞれの時期には固有の「時」、つまり一回限りの機会があるのだということを訴えているのだそうです。曲は歌います。天の下のありとしあるものには時がある……生まれるべき時があり、死すべき時があり、木を植えるべき時があり、植えた木を根こそぎにすべき時がある。種を蒔くべき時があり、収穫すべき時がある。涙を流してよい時があり……怒るときがあり、戦うべき時があると続きます。人が生きていくということは、世の中の流

れというものは、この時の流れが連綿(れんめん)と続いていく、昨日という今日はないし明日という今日もないのだからこの時を大切にしていかななくてはならない、ということを歌っています。

話を高校生活の歯車に合わせて考えてみます。1年生の時、2年生の時、高校生活3年間を捉えた時、部活に専念している時、試験の時、メールを打っている時、遊んでいる時、意識していようといまいとは休むことなく流れていきます。ですから、私たちはときどき立ち止まって自分の生きようはこれでよいのか、自分の高校生活はこれでいいのかと自問(じもん)してみることが大事です。

「ゆく河(かわ)の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀(よど)みに浮かぶうたかたは、かつ消え結びて、久しくとどまりたる例(たとえ)なし。世の中にある人と栖(すみ)かと、またかくの如(ごと)し」鴨長明、『方丈記』の出だしです。時はどんどん過去のものに過ぎていきます。時を失わないために、自分はこの「時」を失ってはいないかどうか、いたずらに見過ごしてはいないかどうか、1年の締めくくりにはぜひ振り返ってみてください。

1学年より

「1年間を振り返って」

1学年主任 天貝 恵美



産業社会と人間の時間を通してやってきたとを一言で言うならば「自分探し」に他なりません。新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できない行事もあり残念ではありました。しかし、様々なガイダンスを通して自分の適性や、進路実現にはどのようなことが必要なのか探ることができました。また、将来を見据えた時間割作成とライフプランの作成は、自分自身と向き合う時間となりました。来年度以降、自分で組み上げた時間割を通して自己実現を目指してくれることを期待しています。

2年次から総合探究という授業が始まります。3年次の課題研究の事前学習としてミニ課題研究などを行います。自ら課題を見つけて調査し、解決方法を考えるということは、これからの社会を生きていく上で必要なスキルになります。いつも受け身で与えられた課題だけをすればいいというものはありません。「学び」というのは本来自ら求めていくものだと思います。皆さんがどのような「学び」を目指すのか、楽しみにしながら見守っていききたいと思います。

2学年より

「総合探究 I を振り返って」

2学年主任 田部井 正代



『総合的な探究の時間』では、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指しています。そこで2年次の『総合探究 I』では、例年と同様①ミニ課題研究、②時間割の見直し、③進路学習、④課題研究のテーマ設定、などの学習活動に取り組みしました。2月に実施したアンケートでは、「よくできた」「比較的良好にできた」という評価をした者がそれぞれ全体の①90%、②78%、③94%、④91%でした。また、主な意見(自由記述)として、①調べ学習はよくできたが、まとめが不十分だったので来年度の課題研究では改善したい。

③進路ガイダンスを聞いて自分の進路に焦りを感じた。本気で取り組みたい。④何度も考え直して、自分が研究したいと思えるようなテーマ設定ができた。などが挙がっています。

いよいよ来年度は総合学科での学びの集大成である課題研究にチャレンジします。研究や課題解決の手法は沢山あります。じっくり、粘り強く取り組んでください。そして、研究過程を苦しみ、楽しんでください。

3学年より

「足南からの卒業＝未来への第一歩」

3学年主任 谷 昌範

令和4年3月1日、第44回の卒業式が挙行され、総合学科第20期生151名が無事に足南を巣立っていきました。コロナ禍での卒業式ということで、残念ながら在校生の参加は出来ませんでしたが、初めてリモートによる参加となり、卒業生の威風堂々たる姿が画面越しに届いたのではないかと推察されます。また、在校生代表・松原生徒会長による送辞と卒業生代表・平澤前生徒会長による答辞は、場所は離れていても心は繋がっているというコロナ禍ならではのやり取りに胸が熱くなりました。長い人生の大きな節目となる卒業式を執り行っていただき、3学年一同心から感謝しております。

卒業式を終えてみて、私が一番残念であったのは、校歌を歌えないということです。コロナの影響で、校歌を歌う機会はほぼなくなり、式典等においてはCDを流すのみとなってしまいました。自分自身もそうですが、在校生の時こは恥ずかしがって大きな声で歌わなかった校歌は、卒業してみると感慨深く、メロディーを聞けば口ずさみたくなるものです。

足南の校歌は、各番とも最初の部分が、足南をとりまく立派な自然環境について語られ、中盤は在学中に送って欲しい学校生活について、最後は卒業後のエールを3つの校訓「聡く・寛く・健やかに」で締めくくっています。この校訓については、校長先生の式辞の中で述べられたように、卒業生も在校生もその意味を深く知る機会ができたと思います。校歌の中で私が一番好きな歌詞は、3番の最後の方に出てくる、

～未来を拓く 夢はるか～

という歌詞です。人には様々な過去があり、多くの経験を通して今があります。そして、今ある自分が未来を創っていく、一歩ずつ今を踏みしめながらはるか遠くにある未来＝夢を拓いていって欲しい、そんな風に感じられます。

卒業はあくまでも人生の process です。今はただ、足南を巣立った151名の卒業生が、はるか先の未来を切り拓いていってくれることを切に願っています。

本当に卒業おめでとう。



修学旅行



2学年主任 田部井 正代

コロナ禍の修学旅行、実施できたのは奇跡のような気がします。様々な好条件が重なり、また、沢山の方々にご協力いただきました。改めて深く感謝申し上げます。

2年前、学年団発足時に設定した修学旅行の目標とは大幅に変わりましたが、「感染対策を徹底し、新しい生活様式を取り入れた旅行を成功させる！」という新たな目標は達成できたと感じています。旅程、座席、食事・・・ほとんど自由のない旅行でしたが、生徒たちは文句も言わず協力してくれました。生徒アンケートでは、保護者・先生方・旅行会社の方々への感謝の言葉も多く見受けられました。心の成長をうれしく感じます。

今後も制限のある生活が続くと予想されます。生徒たちにはこの経験を活かし、困難をしなやかに乗り越えていって欲しいと願います。

「修学旅行の思い出」

私は12月の9日から3日間で、京都・大阪2泊3日の修学旅行へ行きました。当初は北海道に行く予定でしたが、東北方面へ変更になり、新型コロナウイルスの影響から延期が重なり、修学旅行の実施自体が危ぶまれていました。

そんな中、旅行会社の方々や、先生方が尽力していただいたこともあり、無事に修学旅行を実施することができました。京都での1日目は、座禅体験を通して、禅の教えに触れました。禅の考え方は現代人にも必要であると感じました。大阪での2日目は、USJで友人との仲を深め、3日目では京都での班別体験学習や清水寺周辺の歴史的建造物巡りなどで、京都の文化に触れ、日本の歴史の深さを再確認しました。

後期スポーツデイ



保健体育科 齋藤 一真

今年度の後期スポーツデイでは、男子がソフトバレーボール、女子がキックベースボールを実施しました。新種目を実施するにあたり少なからず不安もありましたが、大変盛り上がり無事終えることができました。多くの生徒が活躍しとても充実した行事となりました。

	ソフトバレー(男子)	キックベース(女子)	総合順位
優勝	3-1	1-4	1-4
準優勝	3-4	3-3	3-4
3位	1-4	3-4	3-1

総合学科発表会

総合学科係 森 紀子

令和3年度の総合学科発表会が令和4年1月15日(土)に行われました。今回もコロナ禍での開催となりましたが、在校生にも外部からの見学の方にもできるだけ直接見ていただきたいと考え、実施方法の検討を重ねてまいりました。しかし、年明けに感染の第6波が押し寄せ、発表会場となる第1体育館には2、3年生のみ入場し、外部からの見学者にも入場制限をさせていただくことになってしまいました。1年生はそれぞれの教室で、事前に収録された発表動画を視聴しました。

午前中は、産業社会と人間、総合探究Ⅰ・Ⅱの代表者による発表がステージにて行われました。1年生は自分の描く進路や人生設計をまとめた「ライフプラン」を、2年生は「ミニ課題研究」を、3年生は各系列の代表9名が「課題研究」を発表しました。1年生の時に自己の進路や興味に合わせて選択した科目、そしてその科目に基づいて2年次のミニ課題研究や3年次の課題研究に取り組み、希望の進路を実現していくという、3年間の総合学科での歩みが凝縮された発表だったと感じました。

学校評議員の方々や3年生の保護者が6名ほど見学にみえました。また、YouTubeでのライブ配信のアクセス数は94でした。

コロナ収束まであとどれくらいかかるかわかりませんが、来年度もこれまで以上に充実した発表会になるよう、力を尽くしてまいりたいと思います。



講座発表会

学習指導部長 山田 英城

去る令和4年1月15日(土)に、令和三年度の講座発表会が行われました。講座発表会とは、芸術や技能修得分野の講座を中心に、各講座の選択者が一年間の授業を通して身に付けた学習内容を発表するもので、今年度は体育館での展示による発表と、動画を収録したDVDの視聴による発表の二つの形式で実施しました。

DVDによる視聴は、各教室にて行われました。収録されている講座は、演劇Ⅰ、器楽Ⅰ、器楽Ⅱ、声楽Ⅰ、声楽Ⅱ、体育(ダンス)で、時間にして約一時間に及ぶ内容となっていました。各講座の内容についても、劇中のワンシーンを演じたり、バイオリンの演奏や歌曲の独唱などを披露したり、自分たちで考えた振り付けを発表したり、非常に充実した素晴らしいものでした。

体育館では、芸術科、家庭科の作品に加え、一年次の産業社会と人間、二年次の総合探究Ⅰの研究成果が展示されました。絵画、書道、クラフトデザインなどの芸術分野の作品や、乳幼児用の洋服や玩具、そしてドレスなどの家庭科分野の作品が展示され、どれも見事な出来栄となっていました。また、同じ会場には三年次の総合探究Ⅱの研究成果も展示されており、三年間の学習の流れを感じた生徒も多かったと思います。この流れをしっかりと引き継ぎ、次年度以降もより充実した講座発表会となることを希望します。



発行：栃木県立足利南高等学校

教務部広報係

TEL：0284-72-3119(事務室)

FAX：0284-73-2772

TEL：0284-72-3118(職員室)

http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikagaminami/nc2/index.php?action=pages_view_main

